

### 陸上クラブ紹介シリーズ 第1回

### 長野吉田高校

班員数 3年：8人 2年：12人 1年：7人 計：27人

創立95年の歴史と伝統を誇ります本校は、活躍した多くの先輩方を輩出し、インターハイ・国体にも入賞しています。特に今井博幸選手（信濃中出身）は3000M障害でインターハイに出場、冬季はクロスカントリーで全国優勝をしました。町田暁世顧問（現丸子実業高教頭・44年卒）の熱心な指導により開花していきました。後に、冬季オリンピックには長野五輪をはじめ連続4回のオリンピック出場を果たし活躍をしています。尚、今井選手を小中学時代に熱血指導をしたのは中村市治先生（市陸協S級14年卒）です。

陸上班のモットーは「自主自立」「文武両道」です。生徒たちは、学習をはじめ練習に生き生きと取り組み充実した高校生活を送っています。進学においても高い実績を誇り、14年度卒業生は国立大学5名・私立大も早稲田・明治等に進学し、現在も現役で信州大・早稲田大で活躍している選手もいます。

ここ数年は、連続して全国高校陸上競技選手権大会に出場しています。特に14年度は土屋智美選手（東部中出身）が茨城インターハイに於いて1500Mで2位に入賞しました。1位の選手がクニア留学生であったので、日本人女王に輝いています。記録は4分23秒10で長野県及び長野県高校新記録を樹立しました。その他、主な大会

で土屋選手は、日本・中国・韓国ジュニア選手権で2位、高知国体で5位に入賞しています。更に、北信越高校陸上競技選手権で昨年度は女子学校対抗総合3位の成績を残しました。

今年度の長崎インターハイには男子110MH・三段跳で深澤昌孝（犀陵中出身）、女子走幅跳に金澤貴世（柳町中出身）が出場しましたが、2人とも自己記録を更新することができず。勝負の厳しさ、力を発揮することの難しさを経験しました。捲土重来、国体に挑戦する覚悟をしています。



活動内容は、ウォーミングアップ、体操、ストレッチ、ドリル、基本走、ウインドスプリントまでは全員で行い、本練習は各ブロック毎に行っています。

土・日曜・休日は、丸山浩史コーチ（長野県棒高跳記録保持者・昭和60年度卒）が後輩の指導をしています。

文責 浦野 義忠

▼茨城インターハイ1500M  
2位 土屋智美選手  
平成14年8月2日



題字の「動き」は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号か発行されていました。

平成15年8月21日

発行所 長野市陸上競技協会  
 発行人 浦野義忠  
 編集人 早川千吉郎

### 長野市陸協会長時代を振り返って

前会長 古澤 久四郎

長野市陸協の発展に非常な努力をされた山浦保会長さんの後を平成3年より引継ぎ12年間、会長という大任を務めさせていただきました。その間、会員の皆様はじめ関係官庁や会社その他大勢の方よりご指導とご協力をいただき、心から感謝をしています。12年間いろいろなきがかりがありました。そのうち強く残っている点は、  
 ①山浦保・田中秀雄・藤倉武3名様の方からご指導された点、今も数多く残っています。特に他界された時淋しさと残念が胸に強く感じました。私の会長中、他界された会員は20数名になります。皆様のご冥福をお祈り致します。  
 ②毎年県縦断駅伝の激励会で優勝旗を長野市に持ち帰っても悪くないと激励続けてきました。13年に土川駅伝部長、丸山監督その他役員始め選手諸君達の並ならぬ苦勞と努力の積み重ねにより県縦断駅伝優勝と市町村対抗駅伝5度目の優勝で両手に花となり、非常に嬉しく感謝しております。ご苦勞様でした。  
 ③長野市陸協創立50周年記念祝賀会も、アジア大会選手

と代表旗手で、銀メダル獲得者伝田扶夫氏講師の「生涯スポーツとしての陸上競技について」という演題で117名の出席で盛大のうちに終わりました。出席くださった皆様ありがとうございました。

④長野マラソンの審判員に長野市陸協総出で1回から5回までご苦勞をしていただきましたが、不服不満も言わずに出場者の為に常に笑顔でご協力された皆様に感謝をしております。

- ⑤常に私が願ってあった点
- ・市陸協発展の為に1人1人何をすべきか。
  - ・選手が楽しく全力を出せる環境を作る。
  - ・審判員の服装・行動・言語に注意をしたい。
  - ・自分の係に全能力を出して仕事にあたる。
  - ・大会の度に審判員から諸意見を聞きますが、楽しく仕事が全員できるよう協力しあう。

最後に、会員各位がご健康で、長野市陸協の発展のためご活躍くださることを願っております。

### 県市町村対抗駅伝長野市チーム 市長に4連覇の報告

理事長 浦野義忠

第13回長野県市町村対抗駅伝競走大会（5月4日松本市）で見事、4連覇を達成した報告を伊藤利博会長をはじめ駅伝チームは5月12日（月）鷲沢市長を表敬訪問しました。冒頭、伊藤会長が日頃から長野市陸協の事業に対して理解と協力をいただいていることへの感謝の気持ちを述べ、更に4連覇達成の報告をしました。

市長は「4連覇は大変なこと。良く頑張ってくれた。11月の長野県縦断駅伝でもこの勢いで優勝してほしい」と選手ら15人をたたえ、激励してくれました。

また、市長は長野市総合計画の中でスポーツの振興に係る基本方針とし「スポーツを軸としたまちづくりを目指したい」と、具体的な数値をあげ、国体出場長野県選手団に占める長野市出身者の割合が現在の13%から20%に引き上げたいと、スポーツに対する理念と深い理解を話されました。その後、市体協から6月26日付で、競技力向上に向けた基本構想についての依頼・長野市体育協会認定指導者及び指定選手制度についての通知があり、現在申請をしています。

話は戻りますが、同大会では4区まで駒ヶ根、塩尻市と

▼第13回市町村対抗駅伝優勝鷲沢正一市長表敬訪問 平成15年5月12日



の3チームで熾烈なトップ争いをしましたが、区間優勝をした5区広沢貫行選手（広徳中2年）が後続チームを大幅に引き離して中継すると、終盤は安定した走りでも首位を維持し、2位の駒ヶ根市に2分以上の差をつけてゴールをし、通産7度目の優勝を果たしました。勝因は高野和彦主将を中心にチームが一丸となり、選手達が自分自身に打ち込み、チームを上回る旺盛な精神力と緻密な計画に基づいた練習の賜物であると思います。報告会では選手1人1人が、昨年連覇を逃した県縦断駅伝でのV奪回を力強く誓っていたのが印象的でした。田中哲弘監督も「今大会では選手達1人1人が力を出し切ってくれた。より一層練習に熱を入れ、秋の県縦断に臨みたい」と決意を述べました。

### 【日程変更と追加について】

#### 第17回飯綱マラソン

10/12→10/5 (日)

#### オリンピックデーラン2003

9/28 (日)

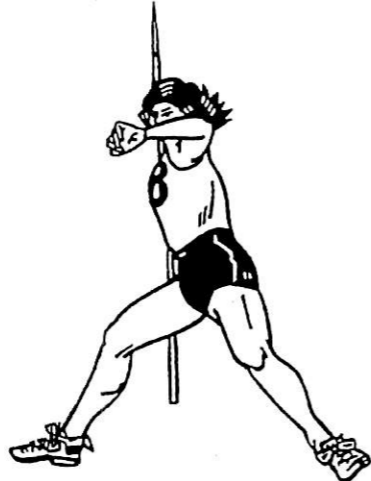
尚10/5 (日)は、第18回全国22国公立大学大会と重なってしまいますので、当初の調査で欠席の方で都合のつく方は西片功審判部長まで連絡して下さい。

### 編集後記

平成15年度の競技会もいよいよ後半に入ることになるうとして参りましたが、気候の変化が激しく、あちこちから熱中症のニュースが流れたかと思うと地震に大雨の被害とその上、日照り不足で作物が心配になるいやなニュースばかりがとびかう季節でも、決定されているスケジュールは審判員の先生方、体調に充分注意され、チカラを合わせて消化して行かなければならないと思います。

大会の当日、まずは、おはよう、こんにちわの軽い言葉から楽しく仕事に入りたいたいものですね。（早川）

SHINANO MATE  
SENSITIVE BRAND



ATHLETIC UNIFORM

株式会社 **しなのメイト**

〒389-0606 埴科郡坂城町大字上五明992-2  
 PHONE (0268) 81-1336  
 F A X (0268) 81-1337

### 傳田力次郎先生を偲んで

長野市陸上競技協会 会長 伊藤 利博

先生は数学の先生として、また、陸上部の顧問として、須坂東・長野吉田・長野工業高校と歩まれ、熱心に指導されました。長野吉田時代に市陸協三代目の会長でありました山浦保先生とご一緒され、「先生は数学の先生だからトラックを書く計算はお手の物だ」と言われ、すっかり陸上の世界にのめり込んでしまった、と生前よく私に話して下さいました。

私は長野工業時代に一緒させていただき、当時は今のよう立派な競技場が無く、大会というは鼻月・工業高校のグラウンドを使って行われていました。先生はグラウンドのレベルを整えたり、距離を計る一番基礎になる礎石を埋め込んでくれたり、大会ができるようにグラウンドの整備を誠心誠意やって下さり、大会にこぎつけたことが今でも懐かしく思い出されます。

先生の日頃の実績が認められ、県陸協施設用器具委員長の大役を3期6年もの長きに渡り務められ長野県の陸上界に尽くされました。その後も競技場、マラソンコースの検定では先生は無くしてはならない存在としてご苦労いただきました。先生は温厚で心の暖かい方で、最近では私が「先生が審判に顔を見せてくれなければ皆が心配しますから必ず来て下さいよ」と言いますと笑顔で「皆

さんに迷惑を掛けないように」と言って元気な顔を大会ごとに見せてくれ、風力計測を手抜きなく元気にやって下さっていましたので、突然の訃報を聞いた時はとても信じることができませんでした。もっともっと陸協のためにご指導をいただきたかったのですが、残念で仕方がありません。先生のご冥福を心よりお祈りすると共にどうぞ安らかに眠り下さい。

合掌



▲ありし日の傳田先生 昭和60年9月7日 国際陸上競技長野市大会レセプション会場にて

### 小林長二郎さんを偲んで

長野市陸上競技協会 副会長 小口 正行

長さんの訃報に接して、一瞬自分の目を疑いました。最近はお目に掛かることがありませんでしたが、また競技会で一緒できると思っていました。容態がそんなに悪いとはつい存じませんでした。

長年にわたる陸上競技界へのご功績に感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。戦後の混乱期に陸上長野の牽引者として、8000mを

中心に活躍。全日本地域対抗に中部地区代表として出場。日本選手権・全国勤労者大会等において素晴らしい活躍をされた勇姿は、今も私の脳裏に残っています。

飄々として話す語り口は陸上競技を愛する思いを吐露して、みんなをその世界に引き込んでしまう迫力がありました。独特の語り口がもう聞けなくなるのは誠に残念です。長さん、ゆっくりおやすみください。

合掌

### 県縦断駅伝優勝に向かって

長野市陸上競技協会 駅伝部長 土川 国人

第50回の記念大会に長野市が13年ぶり6回目の優勝が出来、長野市民及び長野市陸協の皆様の後押しに答えることができました。加えてまた1つ、長野市駅伝部の歴史が出来たと思います。そしてこの駅伝大会が60回、80回、100回と存続することを駅伝で育ててきた1人として願っています。昨年は1日目に上伊那をリードし2連覇出来ると確信して2日目に挑みました。しかし、地元の出道に出て応援する多くの力を背にして地力を発揮し、じりじりと我長野市チームを引き離して優勝をさらわれてしまいました。長野市は故障による選手変更など直前になって思いもかけない戦力ダウンも原因かと反省し、今年度は選手強化をはかり7日目の優勝をぜひ達成しなくてはならないと田中監督以下全員で練習に励んでいます。

6月、第1回目の菅平高原合宿を行い参加20名程にて、1日目3000M×5 90分 jog、2日目6.28km×4の練習メニューをこなしました。また、2日目の合宿は8月2～3日に菅平高原にて6チーム(埴科更埴・須坂下高井・中野下高井・飯山下水内・上水内・長野市)の参加で行いました。この合宿は南信地区チームに負けないようにとの趣旨で初めてもう第8回になりました。今年も皆で打倒上伊那を目標に練習に励み、そして涼しい夏を踏み台に益々頑張ろうと申し合わせて合宿を終りました。秋の終盤への追込みには駅伝部主宰のナイター記録会、大町ロードレースにて自己記録に挑み自己ベストを出せるよう練習環境を整えて望みます。

### 長崎インターハイ参戦記

長野工業高校陸上部 監督 矢野 清隆

2003年、長崎ゆめ総体「長崎が君の鼓動で熱くなる」をテーマに5日間の熱き闘いは幕を開けた。私が引率をした生徒は、北信越大会21”85で男子2000mを2着で出場権を獲得した宮沢洋平選手、春先には調子が上がらず県大会の400mではまさかの準決勝敗退、悔しい涙を流した。最終日の2000mでは3番目でゴールをきったが、昨年度の秋季国体で4位の成績を残した選手としては満足といった結果ではなかった。あせりもある中、北信越では自己新記録をだして全国に向けて意気揚々と出かけていった。

現地に着いたのは29日の夕方4時頃、バケツをひっくり返したような土砂降りの雨の中、長崎駅前に到着。予定をしていたレンタカーで宿舎に着いた。期待はしていなかったが、古きワンルームマンションで少々動揺した。しかしあえて機嫌よく振舞ううちに、宿の奥さん方が随分と親切に対応してくださり、ムードは自分たちで作り出すものだと感じ取って過ごすことができた。

中2日間の調整は天候に恵まれ、予定通りに済ませることができた。いつもおこなう刺激の加速走では顧問共々調子のよさを実感し当日を迎えた。今になって思えば調子の良いときにこそおそろずに取り組み事を確認しなければならなかったが、それを怠った私自信がおどっていたのかも知れない。競技当日はウォーミングアップを終え、予選のタイムが21”99、堅さはありながら予選から21秒台をだしたのは初めてのことで、準決勝での走りに期待は深まった。ストレッチングを十分に施し炎天下の中、召集場

へ見送った。こっそりと召集場の後ろから様子をうかがったが、いつもどおりの飄々とした様子。安心してゴール地点へと向かった。1本のスタート練習を見る限りでは『よし』と思った。柔らかな動きと後半の加速を期待しながらスタートの合図を待った。2組目の第2レーン、決して条件的には悪くない場所。いつもどおりに自分の走りができればよかったが、魔物は待ち構えた。アウトレーンの選手を意識しすぎ、見るからにかみが感じられる走り。コーナーを出た時点で、すでにあご上がり必死に順位を下げずに食い下がるレース。結果は5着。本人は、スタート地点に立つ前に塚原選手からの励ましの言葉をもらったが、ゴールをしてからやっと言葉の意味が解ったと打ち明けてくれた。「自分の力がどのくらい通用するか無心で走れ」その言葉の意味がぐさりと突き刺さった2年生のインターハイ。顧問も含めて改めて自分自身を見つめなおす機会をいただき長崎かきどまり競技場を離れた。

私自身3度目のインターハイ引率、「経験をしてきた」という気持ちか、かえって初心を忘れおどりが生じていたのであれば反省をしなければいけない、努力を惜しまず鍛えることの大切さを再確認することができました。与えられたチャンスに感謝し、来年度に向け1日1日を大切に取組みたいと考えています。今回の原稿記載の担当にいただいたことも今までを振り返る良いきっかけになりました。そのことにも感謝し私の長崎インターハイ参戦記を閉じたいと思います。

### 長野マラソン新コースになる

会長 伊藤 利博

来年の第6回大会から長野市街地を通るワンウェイコースに変更になることが、7月組織委員会から発表されました。今度のコースは市の繁華街を通るということで賑やかになり、大会を盛り上げてくれそうな感じがする一方で、山ノ内町、中野市から出ていたボランティアの応援がなくなり、長野市内だけで捜さなければならないことや、コースにおける関門、給水所の設定などこれから準備していかなければならないことが沢山あります。地元長野市陸協への応援要請も思いますので、その時はよろしくお願いします。

いずれにせよ長野マラソンは年々盛り上がりを見せ、長野市の大きなイベントとして定着してきていますので、長野市陸協あげて協力体制を整えて行かなければならないと思いますので、ご協力の程よろしくお祈り致します。

